

## ゼミ生の「卒業論文」

私のゼミナールでは卒業論文に最大の力点をおき、テーマの設定から執筆までじっくり「指導」してきたつもりだ。毎年この時期になると、卒論提出から卒論報告会へと時が流れ、一抹の「寂しさ」を感じたりする。

今年のゼミ生の卒論は次の5本である。タイトルだけ示しておこう。

- ・北勢町 活性化への挑戦---市町村合併か、「まち育み」か
- ・公共交通とまちづくり---市営交通の「あす」から名古屋の「あす」を考える
- ・中山間地域活性化に向けて---各地の取り組みから中山間地域活性化のヒントを見出す
- ・自治体「自律」への道---長野県泰阜村の事例から
- ・京都議定書---世界の中のアメリカ

タイトルからもわかるように、5本の卒論のうち3本が市町村合併や地域活性化にかかわるテーマである。公共事業とともに、市町村合併やまちづくりにも関心がある私の「影響」もあるが、こうしたテーマを設定して卒論を書き進めてくれたことを喜んでいる。ゼミの後輩も参加する卒論報告会でも述べたが、この3本はなかなか出来ばえが良く、私も示唆を受けたり教えられることが多かった。そのポイントだけ紹介しておきたい。

北勢町は三重県で最初に合併して誕生した現在の「いなべ市」であり、北勢線という鉄道の終点の駅がある。北勢町の合併をめぐる動きと北勢線の廃止・存続運動、そして「まち育み」という新しい発想で活動を進める団体などから、まちの活性化に向けた挑戦について論じている。役場や市民団体へのヒアリングを中心にまとめており、「まち育み」というキーワードが示唆的である。

中山間地域は主に静岡県豊岡村を対象にして、地域活性化のヒントをさぐるというものだ。豊岡村は「内発性を秘めた企業誘致」や独自の農業政策で有名であるが、磐田市などとの合併を選択した。論文では村長へのヒアリング、各地の事例の検討などから、中山間地域の「理想像」を描いている。

泰阜村は自治体「自律」のモデルとして、いまや有名になったが、その現地調査から論文をまとめている。泰阜村を紹介した本や映像はいくつかあるが、それらを踏まえてヒアリングで得た知見を活用して、より具体的に問題を整理している。総務課長や保健福祉係長へのヒアリング内容が、資料で細かく再現されており、泰阜村の過去から現在を知るうえで貴重である。

以上の3地域は、すでに合併したところ、これから合併するところ、そして合併せずに「自律」をめざす自治体である。「平成の大合併」や自治体の「あす」を考えていくうえでも興味深い地域といえよう。 (1月31日 記)